

【目次】

□ネットやSNS上のいじめへの対応

□災害時の「避難の三原則」を知っていますか？

●ネットやSNS上のいじめへの対応

東京都町田市の小学校で起きたいじめ自殺問題は記憶に新しいと思います。GIGAスクール構想で配備された児童用端末がいじめに使われたと大きく報道され、端末の管理のずさんさが問題視されています。端末管理の問題は別としても、インターネットやSNSを通じたいじめが全国的に増加しており、大分県でも同様の傾向です。こうしたいじめは匿名での書き込みや限定した人しか見られない中で行われるなど、表面化しにくいものです。引き続き児童生徒の些細な変化を見逃さず、情報モラル教育もしっかり行っていきましょう。

<参考>

・大分県公立学校総合情報ポータルサイト (情報モラル・セキュリティ教材)

<https://sites.google.com/a/oen.ed.jp/school-portal/home/moral>

※OENメール ([名前@oen.ed.jp](mailto:名前@oen.ed.jp)) のアカウントでアクセスをしてください。

●災害時の「避難の三原則」を知っていますか？

「避難の三原則」とは

原則1 想定にとらわれるな

原則2 最善を尽くせ

原則3 率先避難者たれ

の3つです。

2011年3月11日の東日本大震災のとき、岩手県釜石市では学校管理下の児童生徒は全員生存したほか、帰宅していた児童生徒も5名を除き生存できたという事実があります。これは、釜石市教委が大震災前の2006年から群馬大学(当時)の片田敏孝教授の協力のもとで、各小中学校において系統的実践的な防災教育に取り組んでいた成果であるとされており、片田教授がこのとき提唱した災害時の避難における心構えがこの「避難の三原則」です。

発災当時の釜石市の児童生徒の行動を三原則に当てはめると

(原則1) 地震による停電で校内放送なし、ハザードマップの想定では学校は浸水しないとなっていたが、過去の明治三陸地震で最大13.4mの津波が来ていたことを学習していたため、直ちに避難を開始した。

(原則2) 一次避難場所では標高が低く、土砂災害のリスクもあることに気づき、二次、三次避難場所へと避難した。

(原則3) 生徒たちは「津波だ！逃げろ！」と大声を上げながら避難したことで、地域の人もその声に促されて一緒に避難した。

このように、児童生徒自身が自分たちで判断し、「避難の三原則」のもと行動したことで多くの命が守

られました。この「避難の三原則」を防災教育や訓練で児童生徒に伝えていきましょう。

---

◎メルマガに対するご意見や取り上げてほしいテーマは以下から投稿してください。

<https://www.egov-oita.pref.oita.jp/vdk9zKeA>

---

配信元：大分県教育庁学校安全・安心支援課（URL：<http://www.pref.oita.jp/soshiki/31450/>）